

CREATE LASTING IMPACT

持続可能なインパクトを生み出そう

2026～27 年度年度

国際ローター会長 Olayinka Hakeem Babalola

Rotary

東京麹町



東京麹町ロータリークラブ

本日の例会プログラム

第 10 回例会 2026.10.5 (#2495)

舞の間

例会ホスト・紹介係 末竹会員

受付係 浅野会員 齊藤会員

司会者 保科会員 ソングリーダー 鈴木会員

卓話 米山月間二因んで

「展示すること」

ソン ユーシン米山奨学生

紹介者 内田会員

前回の報告

第 9 回例会 2026.9.28 (#2494)

舞の間

例会ホスト・紹介係 藤田会員

受付係 地引会員 秋山会員

司会者 守屋会員 ソングリーダー 鄭会員

卓話 「インフレ時代の経営戦略」

中小企業診断士 荒武 貞雄氏

紹介者 吉田会員

ロータリーを楽しみ、生涯の仲間を増やそう、その為に一歩踏み出そう

会長報告

- 1) 本日は、中小企業診断士の荒武様に、卓話を御願いしました
- 2) 連休前に、地酒の会、食味会、11月(館林)12月(山口)の職場見学のご案内を配いたしました。是非ご参加ください。
- 3) 本日は、例会の形態と、インドネシアへの旅行についてのアンケートを配布いたしました。ご協力ください

幹事報告

- 1) 会長からもございましたが、親睦会にはぜひご参加下さい。
- 2) 11月16日のオープン例会にお知り合いを是非お連れ下さい、会員増強につながりますので、宜しくお願い致します。
- 3) 来週は、定例会理事会が御座います。

例会記録

会員総数 59名 出席会員数 22名
ゲスト 1名 ビジター 0名
その他 0名 海外ビジター 0名
事務局 3名

ニコニコボックス

中谷会員:お誕生日
若林会員:パートナーお誕生日
吉田会員:荒武様、卓話をありがとうございます。
沢山笑いを誘ってください。

次回予告

第11回例会 2026、10、19(#2496)

会場:翠鳳の間

例会ホスト・紹介係 園田会員

受付係 荒川会員 青山会員

司会者 木寅会員

ソングリーダー 鈴木会員

国際ロータリー第 2580 地区 2026～2027 年度

「ロータリーファミリーの集い」11月3日9:00～

参加対象者:

第1部 ローターアクト、ROTEX、RYLA 学友 米山奨学生、
希望の風奨学生(18歳～29歳)ロータリアン(見学)

第2部 ロータリアン、ロータリーファミリー

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター

卓話「奉仕の心をつなぐ、

米山梅吉の精神」

米山梅吉記念館副理事長

多田 幸雄氏(東京RC)

紹介者 内田会員

ポリオ根絶活動と麹町ロータリークラブ

久保田智也 会員

皆さま、こんにちは。今日はですね、皆さんと一緒に「ロータリークラブとポリオ（小児麻痺）の話」を通じて、少し勉強していきたいと思っております。

以前、「ポリオ根絶は可能か？」というテーマで議論がありました。当時 WHO にいた尾身先生のお顔を、コロナ禍の時期には連日のようにテレビで見かけましたよね。私は「根絶は可能か？ではなく、可能にしなければダメだろう」と思っております。ポリオの根絶は理論上は可能ですが、実際には非常に難しい面があります。本日はそのあたりについてお話しいたします。

先日、乳井さんが「ロータリーの義務は 3 つ（会費の支払い、例会への参加、『ロータリーの友』を読むこと）」とおっしゃっていました。ロータリーは「親睦」と「奉仕」が両輪となって動いています。どちらかが大きくなっても偏ってしまうため、均衡が大切です。そして、親睦も奉仕も「義務」ではなく我々の「権利」なのです。約 50 年前、この権利を最大限に活用して大きな行動を起こした人たちがいました。本日はそのお話をしたいと思います。

ポリオという病気と歴史

ポリオ（急性灰白髄炎・小児麻痺）は決して過去の病気ではありません。「4000 年前のエジプトからあった」といった歴史の話よりも重要なのは、現在進行形で我々の生活に関わっているという点です。わずか 50～60 年前、アメリカでは約 7,000 人、日本でも約 1,000 人の方がポリオで亡くなっています。

60 代以上の方であれば、身近にポリオの経験者がいたのではないのでしょうか。例えば、元社会党委員長の飛鳥田一雄さん、いつも杖をつかれていた小柴昌俊さん、歌舞伎役者の坂東玉三郎さんなども幼少期にポリオを患われています。しかし、若い世代（40 代以下など）にとっては実体験がなく、他人事に感じられてしまうかもしれません。

日本国内では 1980 年の症例を最後に、1982 年に根絶宣言が出されました。それにもかかわらず、現在も子どもたちに「四種混合ワクチン（ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ）」を打ち続けています。なぜなら、世界にはまだポリオが存在しており、国際交流が盛んな現代ではいつ国内に入ってくるかわからないからです。

ポリオ根絶が難しい理由（不顕性感染）

ポリオウイルスは経口感染（口から進入）し、腸管で増殖して糞便とともに排出されます。ウイルスが体内に入っても、約 99% の人には症状が出ません（不顕性感染）。

- 約 99%: 無症状
- 約 0.9%: 感冒様症状（発熱やだるさなど軽度）
- 約 0.1% 以下: 中枢神経（脳・脊髄）に侵入し、麻痺や重症化を引き起こす

脊髄に炎症が起きると運動神経が侵され、主に 5 歳以下の子どもの足に麻痺が残ります。さらに延髄まで侵されると、呼吸や嚥下（飲み込み）の機能が停止し、命を落とすことになります。

つまり、1 人の重症者（あるいは死亡者）の陰には、症状を出さずに感染を広げている人が数千人単位で存在するということです。症状がない感染者もウイルスを排出して人に移す可能性があるため、地域全員にワクチンを行き渡らせない限り、完全な根絶は達成できません。これがポリオ根絶の最大の難しさです。

東京麹町ロータリークラブの先人たち

ここからが本題です。ロータリーによるポリオ根絶運動の源流には、東京麹町ロータリークラブの会員であった山田彝（やまだ・つね）会員と、医師の峰英二（みね・ひでじ）会員というお二人の存在がありました。

1978 年、国際ロータリー（RI）は「3H 補助金プログラム（保健・飢餓撲滅・人間性尊重）」を設立しました。1981 年、山田会員はこのプログラムの一環で南インドへ派遣されます。

ある日の夕方、山田会員がインドの公園を歩いていると、草むらからガサガサと音がしました。見ると、両手両足が麻痺した男の子が、まるで蛇のように地を這って進んでいたのです。用事を済ませてしばらくして同じ場所を通ると、その少年はわずか十数メートル先を、相変わらず地を這いながら進んでいました。その姿を見た山田会員は、「この世からポリオを無くさなければならない」と心に強く誓いました。まさに自身の「奉仕という権利」を徹底的に行き渡そうと決意した瞬間です。

帰国した山田会員は、すぐに東京麹町ロータリークラブでポリオ撲滅運動の決議を取り付けました。さらに翌年、医師である峰会員を誘い、100 万円分のポリオワクチンを持って再び南インドへ渡りました。しかし、第 1 回の活動は失敗に終わります。当時のインドにはワクチンを低温で保つ「コールドチェーン（保冷輸送網）」がありませんでした。40 度を超える酷暑の中、氷を入れたクーラーボックスもしばらくすれば水になり、ワクチンの品質が維持できなくなったのです。もし効力を失ったワクチンを打って感染者が出てしまえば、ロータリーの信用に関わります。お二人は苦渋の決断として、100 万円分のワクチンを捨てて帰国しました。

お二人は「個人や1つのクラブの力だけではコールドチェーンの構築は不可能だ」と悟り、以下のように働きかけを強めました。

1. RI(国際ロータリー)への働きかけ: 語学が堪能だった山田会員が、RI へ何度も書簡を送付。
2. 地区への働きかけ: ガバナーや周囲のクラブを巻き込み、地区全体のプロジェクトとして決議させる。

1984 年、お二人は 1,000 万円分のワクチンを携えて 2 回目のインド訪問をおこないました。そして彼らの情熱的な働きかけが実を結び、1985 年の RI 創立 80 周年事業において「ポリオプラス計画」が正式に決議されました。一人の会員の「ポリオを無くしたい」という強い思いが、クラブの思いとなり、地区の思いとなり、最終的に世界中の国際ロータリー全体の事業へと広がったのです。

その後、1988 年には RI、WHO、UNICEF、CDC などが連携し、「世界ポリオ根絶推進計画(GPEI)」が立ち上がりました。

しかし、度重なる現地訪問と過酷な活動により、お二人は現地で風土病に罹患してしまいます。やつれ、土気色のような顔になりながらも活動を続けられましたが、1987 年に山田会員がご逝去され、後を追うように峰会員も翌年お亡くなりになりました。まさに命をかけてポリオ根絶の礎を築かれたのです。

これからのポリオ根絶に向けて

ロータリーがポリオ根絶運動を始めてから約 40 年が経ち、これまでに多額の資金(2000 億)が投じられ、延べ 30 億人以上の子どもたちにワクチンが投与されてきました。その結果、世界の 99.9%以上の地域からポリオは姿を消しました。

しかし、現在もアフガニスタンやパキスタンなどの一部地域では、情勢の不安(紛争等)によりワクチン投与が行き届かず、わずかに患者が発生しています。症例数がわずか数人であっても、その背景には数千人の無症状感染者が潜んでいる可能性があります。完全にゼロにしない限り、再び世界中に広がってしまう危険性があるため、「選択と集中」をもって最後までやり遂げなければなりません。先人たちが命をかけてつないできたこの取り組みを理解し、我々もできる限りの協力を続けていくことが大切だと考えております。ご清聴ありがとうございました。

Rotary

世界ポリオデー 2026 in 東京タワー

END POLIO NOW PROJECT 2026

END POLIO NOW

Together, We Finish It

ともに、根絶のその先へ

一人ひとりが紡ぐ、ポリオ根絶へのストーリー、
世界を変える物語を東京から

ポリオのない世界まで、あと少し。
みんなの行動が、未来を変える。

2026.10.17(土)

昼イベント

11:00~16:30

会場 東京タワー南面駐車場
(東京都港区芝公園4-2-8)

想定来場者 約1,000名

ポリオ常在国は
世界でわずか 2 か国
(パキスタン・アフガニスタン)

ポリオ根絶宣言書
署名・捺印
※会場に配布されます

昼イベント
入場無料
どなたでもご参加
いただけます!

クラブだより No.10 食味会のご案内

伝統と革新のタイ料理「SAAWAAN BISTRO」 (麻布台ヒルズ)

11月6日(金) 17:30 受付 18:00 食事開始

職場見学会ご案内

- ① 11月14日(土)
アイングループ保有施設(館林)
- ② 12月19,20日(土・日)
山口県方面

東京麹町ロータリークラブ

設立	1968 年 6 月 17 日	〒102-0093
例会日	月曜日 12:30	千代田区平河町 1-3-8
例会場	ホテル・ニューオータニ	平河町プラザ 204 号
		TEL:03-3263-9220
会長	吉田 弘和	FAX:03-3263-9122
幹事	植芝 充央	e-mail office@koujimachi-rc.jp
公共イメージ 向上委員長	杉山 敏美	URL: www.koujimachi-rc.jp